

令和2年度第2回東松島市地域支え合い推進委員会

日 時：令和2年11月10日（火）

午前10時00分～

場 所：東松島市矢本西市民センター
多目的ホール

次 第

委嘱状交付

1. 開 会

2. 開会挨拶

東松島市地域支え合い推進委員会
委員長 根元 藤夫

3. 東松島市地域支え合い推進委員会 副委員長の選出について

4. 報告事項

(1) 令和2年度東松島市生活支援体制整備事業上半期報告について

資料1

5. 協議事項

(1) 令和2年度第1回地域支え合い推進委員会意見について

資料2

(2) 令和2年度生活支援体制整備事業地域支え合い研修会について

資料3

6. その他

7. 閉 会

東松島市地域支え合い推進委員会委員名簿

令和2年11月10日現在

◎委員長 根元 藤夫

○副委員長

NO	氏名	所属	区分
1	相澤 宏智	東松島市役所 総務部 市民協働課	(ア)
2	加来 尊子	東松島市東部地域包括支援センター	(イ)
3	長畑 久美子	東松島市西部地域包括支援センター	(イ)
4	渡邊 智仁	ぱんぷきん介護センター	(イ)
5	根元 藤夫	赤井地区自治協議会	(ウ)
6	千葉 圭悟	大曲まちづくり協議会	(ウ)
7	大野 文武	矢本東まちづくり協議会	(ウ)
8	内海 茂之	矢本西コミュニティ協議会	(ウ)
9	松谷 善雄	大塩自治協議会	(ウ)
10	立川 重行	小野地域まちづくり協議会	(ウ)
11	藤原 修一	野蒜まちづくり協議会	(ウ)
12	尾形 将親	宮戸コミュニティ推進協議会	(ウ)
13	齋藤 あや子	東松島市民生委員児童委員協議会	(ウ)
14	熊谷 かちこ	東松島市レクリエーション協会	(ウ)
15	内海 國雄	東松島市老人クラブ連合会	(ウ)
16	石垣 武	NPO法人 東松島まちづくり応援団	(エ)
17	浅野 勝則	J Aいしのまき	(エ)
18	遠藤 大輔	アグリートなるせ	(エ)
19	眞籠 孝史	東松島市社会福祉協議会	(オ)
20	野崎 瑞樹	東北文化学園大学	(カ)

事務局

東松島市 社会福祉協議会 地域福祉課	事務局次長 千葉 貴弘	東松島市役所 保健福祉部	課長 小山 隆
	地域福祉推進係長 阿部 和子	高齢障害支援課	課長補佐 渥美 勝夫
	CSW 渡辺 英人	包括ケア推進係	係長 葉原 正博
	CSW 本田 栄子		主任 小野寺 昭博
			主査 佐々木 智哉

令和2年度 東松島市生活支援体制整備事業上半期状況について

地域	計画	実施内容（上半期）	成果	課題	下半期の取り組み
赤井 (担当 本田)	・地区自治会と地域福祉活動者（保健推進員、民生委員等）の連携状況を知るための情報交換会を実施	・赤井地域第2層協議体 3回実施 ・赤井地区自治協議会福祉部会が主催、協議体が共催で全10自治会において意見交換会を実施した。 (自治会役員、民生委員、社協職員等が参加) ・宮城県生活支援コーディネーター養成研修へ協議体のメンバー5名が受講した。	・自治協議会福祉部会と第2層協議体が連携し意見交換会を実施することができた。 ・各自治会の役員や保健推進員、民生委員、ボランティア実践者の関係性や自治会におけるそれぞれの役割と活動の現状を把握することができた。 ・自治会と民生委員が連携している自治会が多いことが分かった。	・自治会の役員である保健推進員は、自治会事業の協力はできているが、保健推進員としての役割が理解されていない。 ・自治会と民生委員の連携が取れている自治会が多い反面、民生委員の必要性を理解していない自治会や、連携が上手く取れていない地域もある。	・意見交換会の内容を第2層協議体で共有し、自治会毎の現状や課題を整理する。 ・支え合い活動の理解を深めるため赤井地域における支え合い研修会を自治会役員、協議体メンバー対象に開催する。
	・地域活動に向き、高齢者の現状と課題の可視化と具体的な活動に関する協議の実施	・協議体メンバー、福祉部会員と赤井全10自治会を訪問し、保健福祉に関わる役員と活動内容等についての意見交換を実施。	・意見交換会に参加することにより、協議体の活動を知ってもらうとともに、参加者との顔の見える関係づくりができた。 ・全10自治会の活動状況を知ることができた。	・意見交換会で得られた情報については、地域役員の役割について知る事が出来たが、高齢者の現状と課題の可視化までは至っていない。 ・協議体での具体的な活動については、情報交換会への参加にとどまっている	・10月から2巡目の意見交換会を実施する予定。その中で高齢者の現状と課題について協議する。
大曲 (担当 本田)	・支え合いに関する情報交換と地域活動の啓発	・大曲地域第2層協議体 5回実施 ・地域サロン活動およびフレイル予防啓発チラシを安心づくり事業部で作成し大曲地域全世帯に配布した。 ・安心づくり事業部(協議体)において各地区の活動状況を報告自治会活動の情報の共有を行った。	・自治会ごとの地域支え合い活動に関する取り組み状況を把握することができた。 ・チラシを全戸に配布することにより安心づくり事業部の活動を知ってもらうことができた。	・地域支え合い活動（生活支援体制整備事業）について、自治会の取組みとして進めていく方向で安心づくり事業部では共通認識しているが、一部自治会では安心づくり事業部事業であると考えており認識の違いがある。	・安心づくり事業部のメンバーを中心に自治会事の話し合いの場を設ける。
	・活動の質向上を目的とした情報交換	・宮城県生活支援コーディネーター養成研修1に3名が受講した。	・地域支え合い活動における生活支援コーディネーターの役割や具体的な活動方法について理解することができた。	・安心づくり事業部が話し合っている地域支え合い活動についての理解が不十分で協力体制がとれていない地区がある。	大曲地域における支え合い研修会を自治会役員と安心づくり事業部メンバーを対象に開催する。
野蒜 (担当 渡辺)	・野蒜地域協議体の構成員と、地域資源（ひと・もの・情報）やニーズを把握し、必要とされる資源は開発する。	・7、8、9月に野蒜地域協議体の会議を開催。生活支援体制整備事業について社会参加、介護予防、生活支援をキーワードに協議体構成員の理解の増進を図った。	・協議体構成員が地域のニーズ（児童用マスクの不足）を把握し、ニーズの充足させるためのコーディネートを行いマスクづくりが実現した。	・生活支援体制整備事業についての理解を深める働きかけはできたが、そこから地域資源とニーズの把握（調査）を行う段階までは至らなかった。	・協議体の会議の場で地域資源とニーズの把握を行う。
	・地域支え合い活動の事例発表会や、地域資源一覧表の更新による地域資源の周知・啓発する。	・地域支え合い活動に資する地域資源について、地域アセスメントシートにまとめた。	・野蒜地域の地域支え合い活動に寄与するひと、もの、ことなどについて整理することが出来た。	・把握した地域資源を生かしてニーズに対応するためにも、地域住民への支え合い活動についての啓発が必要。	・協議体構成員と地域支え合い活動の周知・開発を行う。
大塩 (担当 本田)	・移動についての現状を把握する	・百歳体操等のサロン活動へ訪問参加者の会場までの移動手段を把握した。 ・薫沢地区センターの改修工事に伴う会場の変更に伴い、市と社協で移送サービスを実施した。	・百歳体操の活動状況、参加状況の把握ができた。 ・薫沢地区の百歳体操を継続して実施することができた。	・サロン会活動に参加していない高齢者の移動に関する現状の把握が十分できていない。	・民生委員や地域包括支援センターと連携し、個別事例を通じた移動に関する情報収集をおこなう
	・地域活動者、キーパーソンの把握	・塩入地区に「塩入シニアの会」が発足し、立ち上げ時にコーディネーターが地域支え合い活動(生活支援体制整備事業等)について説明を実施した。 ・サロン活動に訪問し、世話人などのメンバーの把握をおこなった。	・塩入地区では、シニアの会の中心に活動をしているメンバーを把握することができた。	・民生委員やサロンの世話人については把握できたが、それ以外で見守り等をおこなっている活動者については把握できていない。	・継続して地域活動の場面へ訪問し、情報収集をおこなう。
	・地域キーパーソンと福祉関係者の情報共有機会の創出	・協議体準備会再開に向け、介護事業所関係者と協議体が目指す地域づくりについて情報共有を行った。	・大塩地域における福祉施設や事業所の役割や協力体制について確認することができた。	・大塩地域にある福祉施設や介護事業所と地域住民が一体となって“支え合いの地域づくり”を考える場が必要。	・福祉施設や介護事業所の地域に対する考えについて調査する。
矢本東 (担当 眞籠)	地域キーパーソンの可視化	・ボランティア団体の活動状況の聞き取り調査の実施 ・地域サロン活動への訪問による活動状況と人材の把握	・ボランティア団体やサロン活動の世話人などの把握とその方々との関係を築くことができた。	・社会参加している人、活動している人については関係性を築くことが出来ているが、通いの場等に参加していない高齢者の生活状況についての把握ができていない。	・地域包括支援センターとの連携による個別共有を通じたニーズ把握
	・地域内民生委員の情報交換の場の設置	・矢本東地区民生委員・児童委員会議への参加（2回）	・矢本東小学区の民生委員の会議状況を把握することができた。	・民生委員の人数が多く、学区別の会議を実施しても連絡事項の共有までしかできておらず、深い情報交換ができていない	・個々の民生委員から、民生委員活動に関する思いや悩みごとの聞き取りをおこなう。
	・既存組織と連携した情報共有の場の設置	・矢本東まちづくり協議会保健福祉部会への参加	・矢本東地区の保健福祉部会の開催状況と事業内容について把握する事ができた。	・保健福祉部会においては、ウォーキング、体操のイベント等、計画にある事業についての協議が主になっている。	・まちづくり協議会福祉部会員の思いについて、情報収集をおこなう。

令和2年度 東松島市生活支援体制整備事業上半期状況について

地域	計画	実施内容（上半期）	成果	課題	下半期の取り組み
矢本西 (担当 眞籠)	・地域キーパーソン及び地域状況の可視化	・地域サロンへの訪問及び社協支部長宅を訪問、地域活動の把握	・民生委員や地域サロン活動世話役等の地域福祉活動者との関係づくりができた	・自治会によっては、深く入れていない自治会地域もあり、把握する状況に差が出ている。 ・サロン活動世話役等の関係者、民生委員の関係性の把握が不十分	・継続して地域への訪問を通じた関係づくり ・民生委員、サロン活動世話人等の関係者の思い、考えの把握と整理
	・地区民生委員・児童委員の情報交換の場の設置	・矢本西地域民生委員情報交換会へ参加 ・地域包括支援センターと一緒に個別ケースへ関わった	・民生委員から個別ケースに関する相談を受ける機会が前年度と比べて増えた	・個別の相談に関して、生活支援コーディネーターとしてどこまで介入するのが明確ではない。	・専門機関との連携の在り方に関するすり合わせを社協で主催する多職種連携会議でおこなう。
小野 (担当 渡辺)	・新道町内会自治会での住民支え合いマップ作りを支援する。	・新道町内会自治会主催の高齢者見守り情報交換会の場でマップづくりについて説明を行った。	・地域での見守り活動の取組状況を把握できたが、マップ作りに関しては、マップ作りに対する認識に違いがあり作成を断念した。	・マップ作りとは違う方法で、新道町内会自治会の地域支え合い活動を充実させる働きかけ方の検討が必要。	・自治会での支え合い活動を可視化する資料を作成して、集いの場づくりと見守り活動に加え、生活支援を検討するきっかけ作りを行う。
	・地域支え合い活動の事例発表会や、地域資源一覧表の更新による地域資源の周知・啓発する。	・地域支え合い活動に資する地域資源について、地域アセスメントシートにまとめた。	・小野地域の地域支え合い活動に寄与するひと、もの、ことなどについて整理することが出来た。	・把握した地域資源が、地域支え合い活動に寄与するためには、より細かい自治会単位での地域資源の把握が必要。	・機会を捉えて自治会単位での地域資源の把握を行う。
宮戸 (担当 渡辺)	・宮戸コミュニティ推進協議会の専門部会【福祉文教委員会】への参画	・専門部会への参画に先立ち、宮戸コミュニティ推進協議会の活動内容を把握するため、大浜台で高齢者を対象に開催された映画上映会の状況を確認した。	・宮戸コミュニティ推進協議会が市民センターまで来れない高齢者を対象に、孤立防止対策などを目的に 映画上映会を行っている状況を確認できた。	・宮戸コミュニティ推進協議会の活動の一旦を知ることが出来たが、専門部会【福祉文教委員会】への参画ができていない。	・【福祉文教委員会】への参画の可否について、宮戸コミュニティ推進協議会の櫻井会長から聞き取りを行い、最適な関わり方を検討する。
	・民生委員・児童委員並びに保健推進員との情報交換会の実施	情報交換会の実施には至っていない。	上半期未着手。	・民生委員・児童委員は把握しているが、保健推進員へのアプローチが出来ていない。	・民生委員・児童委員や保健推進員一人ひとりから地域状況の聞き取りを行い、情報交換会開催の適否について検討する。

については協議体設置地域

東松島市生活支援体制整備事業 令和2年度 第1回地域支え合い推進委員会意見集約表

分類	意見	現状の取り組み状況	課題、今後の方向性
①地域資源の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の整理方法について（取り組まなければならない事と、求められている事の整理） 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状については、地域アセスメントを実施している状況。また、個別の事例に関わりながら、地域と専門職のつながりをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組まなければならない事、求められている事の整理までは至っておらず、整理方法についても定まっていない状況。具体的な整理方法については、今後検討していきたい。
②協議体の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・第2層の在り方として、地域情報を集約できるイメージ ・包括ケア推進会議、第1層会議、第2層会議の役割の明確化と会議体間の連携の在り方の共有 ・自治会、まち協、市民センター、民生委員で連携のとれる仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2層の協議状況については、現在、赤井、大曲、大塩、野蒜で協議体設置。矢本東で準備会を設置し、地域内の関係者間の連携の場としての情報共有を実施している。 ・コーディネーターが地域のそれぞれの団体関係者と関わり、関係づくりをしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2層については、地域ごとに協議体の運営方法についても特徴がある。その中で、共通している部分は情報共有と連携の場という事であり、その中で地域情報を集約するという部分までは至っていない。 ・今後は会議体の役割や期待される機能について、12月に研修会を開催する予定。
③情報の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークづくりのための情報共有方法の検討（情報共有シートの作成） ・高齢者だけでなく、地域生活を送る上での困っている方への支援の在り方と共有方法 ・新型コロナウイルスの影響に伴う活動状況の発信方法について（ラジオ等の活用） ・市民センターだよりなどでの情報の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有シートの作成については、現在他市町の実施状況について研究している状況。 ・新型コロナウイルスの影響による、サロン活動の状況については、百歳体操瓦版や社協だよりなどを通じて情報を発信。 ・物覚え活性化教室の開催などについては、市民センターにも協力をもらい、情報発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター等と地域ケア会議の進め方などについて、今後検討していく予定。その中で、情報共有シート、情報共有の方法についても検討する予定。
④資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・地域組織化の際の組織論、教育論、社会学、心理学などの専門知識の取得 ・PDCAサイクルを意識した活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県生活支援コーディネーター養成研修を第2層協議体メンバーと受講し、質の向上を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・12月10日～11日にかけ、全国コミュニティライフサポートセンターの協力のもと、地域支え合い研修会を開催

令和2年度生活支援体制整備事業地域支え合い研修会について

目的

市内で生活支援体制整備事業を進めるに辺り、生活支援体制整備事業の根幹である地域支え合いの重要性と日常生活の中で、支え合いが実践されている事に気づく機会として開催するもの。

また、現在第2層協議体が設置されている地域の（赤井地域と大曲地域）において、活動を実践している組織や個人が、それぞれの役割や立場の違いについて理解を深め、地域福祉に関する連携・協働の基盤を作る事を目的とする。

日時及び場所

令和2年12月10日（木）	14：00～16：00	赤井市民センター
	18：30～20：30	大曲市民センター
11日（金）	10：00～12：00	大曲市民センター

主催 東松島市社会福祉協議会

共催 東松島市地域支え合い推進委員会

赤井地区自治協議会 大曲まちづくり協議会（依頼予定）

講師 ご近所福祉クリエイター 酒井保氏（下記プロフィールのとおり）



酒井 保(さかい たもつ)

1961年 広島生まれ。知的障がい者施設職員、社会福祉協議会職員、認知症グループホーム・小規模多機能施設の施設長職を経て、2014年8月に「ご近所福祉クリエイション」を創設（主宰）。地域支え合いやボランティア活動、介護予防・地域包括ケアなどをテーマに全国を講演行脚・執筆活動を行っている。イラストレーターとしても活動中。

研修詳細については別紙の通り

令和2年度生活支援体制整備事業 地域支え合い研修会開催（案）

日 程 令和2年12月10日（木）～12月11日（金）

講 師 ご近所福祉クリエイター 酒井保氏

協 力 全国コミュニティライフサポートセンター

対象	日時	対象者	目的	内容
赤井	12月10日(木) 14:00～16:00	赤井地域協議体 メンバー 赤井地区自治協 議会役員 70名程度	地域自治会と地域活動者とのつながりについての 連携・意見のすり合わせ 地域生活を継続するために、地域の中での「支え合 い」についてお互いの立場で共有する。	・講話とグループワーク 「地域支え合いと各団体、組織、個人の役割（仮）」 をテーマに講話。それぞれの立場で出来そうなこと、 やってみたいことを共有する。 ※赤井地区自治協議会共催
大曲	12月10日(木) 18:30～20:30	大曲安心づくり 事業部メンバー 各自治会役員等 70名程度	大曲地域の安心づくり事業部の活動、協議内容につ いて、現在の安心づくり事業部の活動内容の振り返 り。今後、地域生活支援を展開していくための視点 について、安心づくり事業部及び自治協議会に関わ っている人と共有し活動につなげるヒントを得る。	・講話とグループワーク 「地域支え合いと各団体、組織、個人の役割（仮）」 をテーマに講話。それぞれの立場で出来そうなこと、 やってみたいことを共有する。 ※大曲まちづくり協議会共催
全域	12月11日(金) 10:00～12:00	第1層メンバー、 市内第2層協議 体及び準備会メ ンバー (赤井、大曲、野 蒜、矢本東、大塩) 70名程度	第1層及び第2層の協議体の役割について、協議体 メンバー間で理解を深め、他地域との連携が促進さ れる事を目的とする。また、他地域の協議体メンバ ーと情報交換する事で、互いの協議体活動のヒント を探る。	・本物の「支え」「合い」活動づくり5つのポイント 協議体での協議の際に、意識して欲しいポイントと しての地域生活支援の視点について講義とワークを 通じて共有する。

講師プロフィール



酒井 保(さかい たもつ)

1961年 広島生まれ。知的障がい者施設職員、社会福祉協議会職員、認知症グループホーム・小規模多機能施設の施設長職を経て、2014年8月に「ご近所福祉クリエイション」を創設(主宰)。地域支え合いやボランティア活動、介護予防・地域包括ケアなどをテーマに全国を講演行脚・執筆活動を行っている。イラストレーターとしても活動中。